

1 目的

(1) 指導力向上

特別の教科「道徳」の実施に向けて、道徳の指導力の向上を図ります。

(2) 豊かな人間性の育成

生徒一人一人が互いに認め合い、尊重し合い、共感し合って温かい人間関係をつくろうとする心の育成を図ります。

(3) キャリア教育の推進

勤労体験学習に向けての事前・事後学習を行いキャリア教育の充実を図ります。

2 内容

(1) 指導力向上

ア 道徳の指導力向上のために、中村浩二氏（名城大学教職センター特別講師）を講師に招き、現職教育（7／3、12／21）を実施しました。あと1日の現職教育を計画しています。（3／19）



中村先生による
模擬授業の様子

(2) 豊かな人間性の育成

ア 生徒が学校行事で人々に感動を与え、達成感を味わうこと、さらに教師が専門的な指導にふれることで教科指導のスキルアップをするために、照喜名一男氏（名古屋音楽大学名誉教授）を講師に招き、合唱指導（9／8、2／20）を実施しました。卒業式に向けて、あと1日の合唱指導を計画しています。（3／1）

イ 命の大切さや尊さを知り、自分や他人を大切にしようとする心の育成を図るために、伊藤幸子氏（名古屋医専教務部主事）を講師に招き、命の授業（12／12・13）を実施しました。

ウ 互いに認め合い、尊重し合う心の育成を図るために、佐野有美氏（車いすのアーティスト）を講師に招き、人権講演会（10／17）を実施しました。

(3) キャリア教育の推進

ア 勤労体験学習（2年生）の事前学習として、朝倉奈津江氏（研修インストラクター）を講師に招き、マナー講座（10／19、10／20）を行いました。

3 評価

(1) 指導力向上

ア 毎年、学校評価アンケートの結果を見ると、教師・生徒共に道徳の授業に対する意識が低く、取組も十分ではありません。また、保護者の学校評価アンケートの結果もポイントが低くなっています。そのような中、新学習指導要領では、道徳教育の充実が叫ばれています。昨年度に引き続き、中村先生に道徳の取組に対する意識や基本的な授業の進め方を教えていただき、教師たちは、道徳の授業への意識を高めることができました。教えていただいたことをもとに、授業に取り組む教師もいました。学年で一つの指導案を作成して実践し、振り返る姿も見られました。次年度以降も引き続き、中村先生を講師に招き、道徳の授業の実践に努めていきたいと考えています。

(2) 豊かな人間性の育成

ア 照喜名先生の指導はたいへん情熱的で、少しでも子ども達の良さを引き出そうと一生懸命に指導をしていただきました。合唱指導を受けた生徒達は、学校祭の合唱で、調和のとれた歌声を披露し、聴く人に感動を与えることができました。特に、毎年の積み上げが3年生の素晴らしい合唱となって成果が上がっています。3年生のある保護者からは、「各学年素晴らしい合唱ですね。特に3年生の合唱は力強く感動しました。」という声を聞くことができました。また、指導していただいたことは、日々の授業でも成果が出てきているようで、授業参観などでも、参観していただいた保護者から、「学校祭や卒業式の歌声が楽しみです。」と期待の声をいただきました。自信をもって歌う姿から、少しずつではありますが、合唱を通して自己肯定感を高めることができていると感じています。

イ 「命の授業」は、毎年1年生を対象として行っています。伊藤先生の指導は大変丁寧でわかりやすく、子どもたちに命の大切さや生命誕生のすばらしさを教えてくれます。また、助手として多くの学生を連れて指導に当たっていただいています。生徒の感想では、「生まれてきたことは奇跡で、すごいことなんだと改めて思いました。」「今回の授業で自分の特別さを気付けた気がしました。」など、命を大切にしようとする声が聞かれました。また、自分や他人を大切にする気持ちを育てることができたようです。

ウ 「私が夢を語るなら ～どんな状況でも夢をもつ大切さについて～」という演題で話を聞きました。先天性四肢欠損症で生まれ、あるのは短い左足と3本の指のみの佐野さんが、電動車いすで登場されたときは驚いた様子でしたが、真剣に話を聞き、これからの過ごし方、生き方について考えることができました。生徒の感想では、「佐野さんの話や歌、笑顔からたくさんの勇気をもらいました。学んだことを忘れずに、心にとめて生活していきたいと思いました。」など、今後の生活に対する前向きな言葉がたくさん聞かれました。本当に有意義な時間を過ごすことができました。



生徒達に語りかける
佐野有美さん

(3) キャリア教育の推進

ア 朝倉先生による勤労体験学習に向けてのマナー講座で学習したことは、日常生活の随所で生かされています。また、3年生になってからの高校見学の際にも役立っています。専門の講師から学ぶマナーの基本は、中学2年生の生徒達にとって初めて知ることが多く、意義深い体験の場となりました。さらに、教師にとっても、自身の言動や日頃の指導方法を見直す良い機会となりました。

4 課題

保護者や生徒、地域からの信頼を得るためには、教育活動のさらなる向上や発展を目指さなければなりません。特色ある学校づくり推進事業により、生徒はさまざまな取組を通して体験から学ぶ機会が増えました。今後は、学んだことを活用する場や学びを通して、自己の成長が実感できる振り返りの場などを工夫し、さらに生徒の自己肯定感を高め、主体性と伸ばしていくことが課題と考えます。

次年度以降も引き続き、「当たり前前のが当たり前のできる生徒・教師」をキーワードに、全職員が力を合わせ質の高い教育活動を展開していきたいと考えています。